

今西先生との思い出

保岡 拓摩

今回は縁があり、今西先生との思い出について書かせていただけることになったため、この場を借りて記述する。私は3年前に神戸学院大学を卒業し、現在では兵庫県立高等学校の非常勤講師として勤務している。今西先生には神戸学院大学の在学中から授業やゼミなどで指導していただいた。また、大学を卒業した後もお世話になっており、先生が作成している論文集に投稿させていただいている。

私は今西先生と、はじめて会った際のことをよく覚えている。それは大学に入学後、開催された教職課程のガイダンスであった。そこで先生は集まった学生に対し、教職課程を取ることは相当な覚悟がない限りやめた方がよいと話をされていた。当時の私は、まだ教員になるか迷っていた時期であったため、教職課程を履修することは非常に厳しいように感じられた。一方で、今西先生からの話により覚悟をもって教職課程を履修しなければならないと決意できた。その後、私は先生から授業などの場面で厳しく指導していただいた。授業では、私に質問をされることや模擬授業がある際は真っ先に指名していただくことが多かった。また、私がゼミの発表などで準備が十分でない時に、先生から厳しい指摘を受けていた。私の不手際から先生から教員に向いていないと指摘をされたこともあった。私は先生からの指導を受けて、つらいと思うことがたくさんあった。しかし、現在では厳しく指導することが必要であったと考えている。実際に、私が教員として昨年度から働き始めた際に、指導していただいたことが生徒指導に役立っている。私は生徒たちと向き合う際に、当初は優しく接していたが、あまりうまくはいかなかった。それは生徒に対して優しく接することは優しさではなく、甘さではないかと思ったためである。私は本当の優しさについて、今西先生のように生徒のことを思ってこそ、はっきりと指摘することであると考えた。そこで、私は生徒に対して生徒のことを思いつつ、はっきりと指摘するようになると、少しずつ生徒の態度も変わってきたように感じている。私は今西先生の指導は厳しかったが、それは私が教員として生徒を指導する際に私の甘さが生徒に悪影響を与えるとの考えがあったと現在、考えている。同時に、私は先生の厳しさがあったために、仕事の中で辛いことがあっても乗り越えることができている。一方で、今西先生は私のことを認めてくださることも多かった。在学中に、私は模擬授業を行う機会があり、模擬授業に対する周りの学生の評価は良くなかった。しかし、講義の後に先生は私によく頑張ったと励ましていただいた。私は大学に進学するまで、あまり周りの人から認められる経験がなかったため、素直にうれしかった。先生に認められた経験があったため、私は教員になってから生徒たちの頑張りを褒めることを忘れないようにしている。生徒たちの中には、他人にあまり認められる経験をしていない者も多くため、頑張りを褒めることで自信

神戸学院大学 人文学部 人文学科卒業（平成26年度）
兵庫県立川西明峰高等学校 非常勤講師

をつけてもらいたいと思っている。先生から指導していただく過程で、私が生徒指導を行う際のもとになっていると考える。

今西先生には授業以外でもお世話になっていた。今西ゼミの際に近くの中学校に花壇の整備や授業の見学をさせていただいた。その機会を通して私は3回生から授業で支援活動をし、4回生でスクールサポーターとして1年間、活動させていただいた。その際、中学校での活動経験は現在の生徒指導の基礎になっている。また、私は今西先生が毎年発行している生徒指導研究に論文を神戸学院大学に在学中の4回生の際から投稿させていただいている。その際に、生徒指導がテーマに論文を作成している。昨年までは生徒指導について考える機会がほとんどなく、テーマを設定することが難しかった。しかし、学校で働いていると生徒指導に関する問題が多く存在すると実感した。実際に、今年は昨年度から募集が始まった給付型奨学金と現在行われている貸与型奨学金について、投稿させていただいた。そのテーマは生徒と関わる中で進学したいが、経済的に希望の学校へ行けない生徒を見た際に、生まれた疑問から構想したものである。つまり、生徒指導についての論文は教員として学校で働き始めると、生徒指導をテーマとした論文を書くことは自らの疑問について考え、整理する機会になるため、良い経験となっている。そして、私は生徒指導を深く考える機会になり、今後も生徒の問題を見逃さないように指導し、生徒たちの問題を少しでも解決していきたい。

今西先生との思い出は厳しい指導が印象に残っているが、それは先生の優しさがあったからこそだと今回の文章作成により思い返した。そして、先生の指導が現在の私の生徒指導につながっており、私は今西先生に非常に感謝している。また、私は論文の作成を通じて、生徒に関する問題について考えていくために今後も投稿を続けさせていただきたい。